

## ジョルジュ・ジェルモンは真の悪人である（椿姫）

情報工学科 2 年 飯塚健太

ジョルジュ・ジェルモン(以後ジェルモンと記す)とは椿姫の第二幕で登場する、主人公 アルフレード・ジェルモンの父親である。ここでジェルモンは、ヒロイン、ヴィオレッタ・ヴァレリーに対して執拗にアルフレードと別れるようにせまる。

### ・なぜここまで別れさせようとするのか？

ジェルモンには縁談を控えている娘がいる。息子アルフレードが娼婦であるヴィオレッタと付き合っていると、娘の縁談に悪い影響が出ると考え、ヴィオレッタに別れるように説得する。ヴィオレッタはこのとき、自分の命が残り少ないことを話し、なんとかジェルモンを説得しようとする。普通、こんなに頼まれたら許すのではないのかと思うが、ジェルモンは全くひるまず、ヴィオレッタを極限まで追い詰めるのだ。元々、心が強そうではないヴィオレッタに辛辣な言葉を浴びせ、あろうことか最終的には「神様が自分にこう言わせている」などと言って、ヴィオレッタに「あなたの娘さんのために私は死にます」とまで言わせる。正直ここまでくると、自分の息子が娼婦なんかと付き合い、結婚などしたら自分の評判が下がるので、それを防ぐためにヴィオレッタを極限まで追い詰め、アルフレードとよりを戻すことがないようにしているのではないだろうかと思いたくなる。娘が大事なのではなく、大事なのは自分の名誉で、むしろ、本当に娘に縁談があるか、娘がいるかも怪しい、とさえ考えることもできる。

第二幕後半の最後で、感情を爆発させてヴィオレッタに札束をぶつけたアルフレードをジェルモンが激しく叱責する。

### ・なぜあんなに叱責したのか？

これはおそらく、有名人や富豪の多くの人々の前で、息子が大恥をさらしたことに腹を立てたからではないか。ジェルモンは前記したが自分の名誉が大事なので、アルフレードが大恥をさらしたことに我慢ならず、激しく叱責したのではないか。

### ・そもそもなぜパーティの会場にいるのか？

突然、別荘を飛び出して行ったアルフレードをつけて行ったのか？

それとも、置いてあった招待状を見て会場に行ったのか？いずれにしても、なぜ会場に行ったのか？おそらく、招待状の宛名がヴィオレッタになっていること、アルフレードのようすから、彼がパーティの会場に行くことを察してそこでよりを戻してしまうのではと心配になり、会場に行ったのではないか。そし

て、ヴィオレッタがアルフレードに「あなたとは一緒にいられない」と言ったので、ジェルモンとしては望んだ結果になったのではないか。

第三幕では、ヴィオレッタが病床に伏してしまう。そのシーンでヴィオレッタがジェルモンからの手紙を読み、その後、アルフレードとジェルモンが駆けつける。

・なぜヴィオレッタが、余命幾何もなくなってから駆け付けたのか？

この場面は二幕から数か月が経っている。そして、まさにヴィオレッタが息絶えそうなタイミングで訪ねている。ジェルモンはこのタイミングを狙っていたのではないか。ヴィオレッタが病気でもう長くないことを知っているのはアルフレードとジェルモンだけではないはずだ。たとえば、ヴィオレッタの親友であるフローラやヴィオレッタを看病しているメイドのアンニーナが、ヴィオレッタがもう危ないということをもっと早くアルフレードに伝えようとしていたと思う。それに海外にいる(決闘をしたため海外に身を隠していると推測される)とは言え、本当のことを知ったら、アルフレードは急いで来るはずである。おそらく、アルフレードを海外に逃がしたのにもジェルモンは関わっており、どこに逃がしたのかという情報を周りに一切漏らさずにいたのだろう。このヴィオレッタが息絶えそうなギリギリのタイミングで、来たのはアルフレードを納得させるためであろう。そこで「自分は間違っていた。愚かな老いぼれだ。」と小芝居を打って、あくまで、自分は「ヴィオレッタが病気の振りをしていたと思い込んでいた」とアピールをしているように思えてならない。

これは、僕の感じたことから推測したことなので、専門家の解釈とは全く異なるかもしれない。しかし、僕からみたジョルジュ・ジェルモンは非常に頭が切れて、用意周到で、自分の保身が一番大事な物に見えた。彼は自分の保身のためならどんなこともいとわぬ真の『悪人』だと思う。